

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392900052		
法人名	株式会社サカイ		
事業所名	グループホームあじさい「みゆき」 1階		
所在地	愛知県刈谷市御幸町4丁目212番地		
自己評価作成日	令和2年8月29日	評価結果市町村受理日	令和3年1月27日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナ感染が拡大している中、外出や地域との交流がむずかしくなっているため、ホームで出来るレクリエーションに力を入れて楽しんで頂いています。  
ご利用者様に寄り添ったケアを提供していきます。

**※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)**

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2392900052-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2392900052-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームでは、近隣で開設しているデイサービスで行われている認知症カフェにホームからも参加する機会をつくり、地域の方にホームを知ってもらう機会につなげている。運営推進会議の際には、地域の方をはじめ、医療分野の専門職の方の参加も得られており、会議を通じて、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。日常生活についても、利用者一人ひとりに合わせた支援経過記録(ノート)に記録を残しながら、一人ひとりの意向等に合わせた支援につなげている。運営法人が複数の介護事業所を運営していることで、法人全体で職員研修の取り組みが行われている。非常災害に関する取り組みについても、運営法人全体で対策が検討されており、関連事業所の管理者が当ホームの避難訓練に立ち会う機会をつくりながら、災害対策に関する改善につなげる取り組みが行われている。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年9月23日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所の目につきやすい所に掲示してあり、毎朝朝礼時に、理念とみゆきの目的を唱和している。	運営法人の基本理念を支援の基本に考えながら、ホームでも職員から意見を出し合いながら独自の理念をつくっており、日常的に職員間での唱和も行いながら、理念の実践につなげている。また、職員間で目標をつくる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の組に入らせて頂いており、お祭り、清掃、消防訓練等に参加している。	現状の感染症問題もあり、地域の行事は中止になっているが、例年は、地域で行われている行事の際には、ホームからも参加する等、交流の機会がつけられている。また、近隣のデイサービスで行われている認知症カフェに参加する交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議など、地域の方にも参加して頂き、認知症ケアについて話題を提供させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、ホームの写真で活動内容を報告。その場で意見を頂けるよう働きかけを行っている。	毎回の会議には、地域の方や家族の他にも、医療分野の専門職の方の参加も得られており、会議を通じて、ホームの運営に反映する取り組みにつなげている。また、会議に合わせて資料を配布し、出席者にホームの現状を知ってもらう取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	毎回、運営推進会議の案内を出し、会議に参加、助言を頂いている。直接出向いたり、電話で連絡や報告等を行っている。	市内の介護事業所が集まる連絡会にホームからも参加する機会をつくり、市担当部署との情報交換の機会につなげている。また、市の介護相談員を通じた情報交換や地域包括支援センターとの交流も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修等にも身体拘束に繋がる内容の確認や意見交換をしている。日中、玄関施錠がしていない。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、玄関等の出入り口には施錠を行わない取り組みが行われている。身体拘束に関する専門の委員会を通じた現状の確認や定期的な職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	新人研修、基礎研修等にも虐待について学び、会社で毎月虐待検討委員会にて情報検討している。不適切ケアを発見した時はスタッフ間で話し合えるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	新人研修、中堅職員研修等で常に学ぶ機会があるが、日常的に学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には料金、サービスについて契約書を用いて十分な時間を設け説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族との信頼関係を築き、意見、要望などを聞き入れられる状況を作り、反映させている。	ホームで行われている行事の際には、家族にも参加を呼びかけ、家族との交流の機会につなげている。運営法人で独自のアンケート活動を行いながら、家族からの要望等の把握が行われている。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見等をよく聞いて下さっている会議を毎月開催しており、現場からの意見を報告している。	毎月の職員会議や日常的な職員間での情報交換等、管理者が把握した職員からの意見等を運営法人に伝え、ホームの運営への反映につなげている。管理者による定期的な職員面談を行い、職員一人ひとりの把握につなげる取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与等について、簡単な試験で等級を決め、それを基準として資格等の補助があり、向上心を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修の場を設けている。キャリアシートを使用して職員の向上心を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他事業所を行事、会議などで交流する機会はあるが、相互訪問等の活動を通じている。現在はコロナで交流はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様のペースに合わせ話を傾聴し、より良い関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前のアセスメントで困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けている。入所後も状況報告を行っている。ケアプラン見直し時に聞きなおしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所前のアセスメントにて、必要な支援に関して初回プラン立案の際に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に暮らしているという実感を持って頂いけるよう、本人の能力を活かした取り組みを心がけ、一緒にお手伝い等して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月に一度メッセージカードと写真を家族様に送り、ホームでの様子を報告、行事等の参加を呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域のイベントにてお知り合いの方との会話を楽しんで頂いている。	入居前からの関係継続困難になっているが、家族との情報交換を行い、ホームからの働きかけは行われている。家族との外出についても、ホームからも働きかけを行いながら、喫茶や食事をはじめ、家族と一緒に過ごす時間をつくる支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者さん同士のコミュニケーションが途切れないよう、職員が間に入っている。相性など考慮したり、リビングの席を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	移り住む際の関係者に対し、十分に本人の事を伝え、できる限り相談し行っている。不幸の連絡等、頂けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や行動力、表情などから意向を汲み取る努力をしている。職員間で担当制を作り、利用者様の把握に努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みや利用者毎に分けられた支援経過ノートを活用する等、利用者の意向等の把握につなげている。また、ホームでは、ユニット毎に毎週のカンファレンスの時間をつくっており、利用者一人ひとりの検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	聞き取り、アセスメント等にて把握し努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の利用者様の生活パターンに合わせたケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常的にモニタリングチェック表を活用している。問題点は会議等で話し合いし反映している。	介護計画は、6か月毎に利用者の変化等に合わせて見直しが行われている。担当職員も参加しながら支援内容に関する日常的なチェックや毎月のモニタリングを実施しており、6か月での評価を行い、介護計画の内容につなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	支援経過記録を活用し、職員全員が勤務前に目を通している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院介助が必要な方は支援している。かかりつけ医の訪問、訪問歯科、訪問マッサージの利用時、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	清掃時、まつり等、地域行事開催し、日時、公共施設、公園等把握し、外出を楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の往診時以外にも必要に応じ、かかりつけ医と連携を図り、適切な受診、相談、助言を頂いている。	ホームでは、利用者の健康状態等に合わせた複数の医療機関との連携が行われており、それぞれの医師による訪問診療をはじめとする医療面での支援が行われている。また、ホームに看護師が勤務しており、医療面での支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の看護師による健康管理をして頂いている。その際相談し、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のご様子を把握し、退院時には入院中の情報収集、退院後の助言指示を医療機関より直接文面で頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	その都度、ご家族にホームでできる事、出来ない事を説明させて頂いている。重度化された場合は、家族様、協力医師の意見を総合し、ホームでできる事の説明、適切な支援に努めている。	利用者のホームでの看取り支援も行われており、協力医との連携を深め、家族との話し合いを重ねながら、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。また、看取り支援に関する職員研修の取り組みも行われており、必要な指導等が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急搬送時のマニュアルを作成し、職員全員で対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	各職員研修での研修、マニュアル作成、防災訓練の実施、年2回づつ行う。	ホームでは、2か月毎に火災、地震、水害とテーマを決めながら訓練を実施しており、職員間で連携を深めている。地域の災害訓練にホームからも参加する機会をつくり、地域の方との連携につなげている。また、ホーム内に必要な備蓄品の確保も行われている。	現状、地域の方との交流が中断している状況でもあるため、感染症問題が落ち着いた際には、地域の方との協力関係の取り組みが再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人ひとりが人生の先輩という認識を忘れず接している。入浴時や排泄時にはプライバシーを損ねないように心がけている。	運営法人の専門の委員会による接遇に関するスローガンを唱和する等、職員が利用者への対応を意識する取り組みが行われている。また、運営法人で行われている接遇に関する職員研修が行われており、職員の振り返りにつなげる取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	時々、本人様に選んで頂き、自販機にて好きな飲み物を購入して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者のペースに合わせて支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	好みの洋服を着て頂けるよう支援している。毛染めを希望される方には、美容院での毛染めを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材に日付の紙を貼って頂いている。食事の準備、盛り付け、食器ふき等、できる事を手伝って頂いている。1日のメニューを目に見える所に掲示している。	職員がユニット毎にメニューを考え、利用者の好みや嗜好等に配慮した対応が行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加している。おやつ作りや季節等に合わせた食事作りが行われている他にも、職員も利用者と一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量を常に把握し、記録している。食事、水分、形態もその方の状態に合わせて、粥、刻み、とろみ等、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケア実施している。自分でしっかりできない方は仕上げの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を利用し、常に職員が排泄状況を把握し、介助ができるようにしている。	一人ひとりの排泄記録や支援経過ノート等も活用しながら、日常的に職員間で排泄に関する情報を共有が行われている。トイレでの排泄を基本に考えながら、毎週のカンファレンス等を通じた検討も行われており、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便状況を記録し、何日も排便の無い方は、医師の指示により下剤の服用等で排便管理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	1日おきの入浴になっているが、その日の希望、状態で入浴して頂いています。	毎日の入浴の準備が行われており、利用者は1日おきに入浴する支援が行われている。利用者の身体状態等に合わせた職員複数での対応も行われている。また、季節等に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活パターンに合わせた就寝ケアを行っています。夜間に起きられたり、眠れない方には傾聴したり、お茶を飲んで頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師による説明を受け、適切に服薬できる様、その都度、職員に申し送りしている。症状の変化等ある時には支援ノートに記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日の生活の中で役割を見つけ、毎日実行できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	月間予定に散歩等、外出を計画している。近隣の祭り等の情報を確認し外出している。コロナウイルスのため、外出が減っている。	感染症問題があることで、利用者の外出の機会は限られているが、日常的にホーム近隣を散歩する等、利用者が季節を感じることができるような支援が行われている。外出については、認知症カフェをはじめとして、毎月のように外出の機会がつけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々で出納帳をつけている。自己管理できる方には少額を持って頂き。自動販売機の利用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人様の要望があれば、家族様へ電話介助している。毎年、年賀状を家族様へ出す機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせた花を飾っている。利用者様と作品を作り飾っている。	ホームのリビングについては広めの空間がつくられてあり、利用者が日中の時間をゆったりと過ごすことができるような生活環境がつくられている。また、リビングや通路の壁面には、季節感のある飾り付けや行事等の写真の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングに畳コーナーがあり、ソファーに自由に座って過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具を置かれたり、家族、ペット等の写真が飾られている。	居室には、利用者や家族の意向や好み等に合わせた家具類の持ち込みが行われてあり、利用者が過ごしやすい居室づくりが行われている。また、家族の写真を飾ったり、自身の作品を掲示する等、一人ひとりが好みの空間をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの能力に合わせ、動線を配慮し、席を考慮したり、話が合う方同士を同席にしたりと工夫している。		